

# 東京 の

## 演奏会から

### Concert Reviews

#### オーケストラ

●東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団 (第26回)

「ハイドン・イヤール」を締め括って三石精一指揮ユニバーサル・フィルがオラトリオ《四季》をほぼ全曲上演した。オケは10型2管のモダンソリストは佐々木典子 (S)、経種廉彦 (T)、久保和範 (Bs)、同フィル混声合唱団は約200名の大編成。三石はチェンバロの弾き振り。長時間を覚悟したが、いざ始まってみるとテンポは爽快、拍節感も明快でオケの音色は輝かしく、曲間のつながりもスムーズ。気がつけば春夏の前半が終わり、後半も同様のフットワークの良さのうちに4つの季節が巡った。このきびきびとした躍動感とわかりやすさが最大の特筆点。合唱の発音も従来の重くくすんだイメージを覆し、耳に明るく軽やか。ソリスト3名はいずれも佳演。ことにハイモニーのよい三重唱は聴きもの。トウッティと全合唱の迫力から、チェンバロ伴奏によるレチタティーヴォの緻密晴朗まで起伏ゆたかに曲が進み、圧倒的な4声のフーガで春到来を前触れして結ばれた。(12月5日・東京芸術劇場)

〔萩谷由喜子〕